

研修報告 A班2グループ Action 2 University

テーマ設定

■大学の役割

大学の役割をグループで共有し、「教育」による優秀な学生の育成・輩出や「研究」による新たな価値の創造は、日本社会および国際社会を活性化させる「地域貢献」になりうると考えた。そこから、大学が担う最も大きな役割は、「教育・研究」を通じた「地域貢献」であると意見が集約された。

■役割を果たすために、大学がなすべきこと

「教育・研究」が将来的に「地域貢献」に繋がる点を踏まえ、大学としてなすべきことは、社会に貢献しうる学生の育成・輩出と考えた。

■大学の現状

近年、大学では自分の意志で物事を決めることを恐れ他者に責任を求める学生や、目的意識が無い学生といった受動的な学生が増えている。さらに大学として受動的な学生に目的を見つけさせる有効な情報・手段を提供できていない現状がある。

■役割を実現するために必要な取り組み

受動的な学生を自ら考え行動できる人材へと成長させるために、まず学生各々が持っている潜在的な興味関心を引き出し、それを自らの意志で突き詰めることのできる環境を整えるといった、自主性を育む方策の提供が必要であると考えた。

■グループ討議で取り上げるテーマ

以上から本グループでは自主性の育成を議論の中心に据え、討議で取り上げるテーマを「学生が自ら考え行動し、社会に貢献できる人材に成長できる大学創造」とした。

問題点の深堀

テーマ設定により大学の理想像を明確にすることができた。そして、現状からその理想を実現するための目標・目的を以下のとおり出し合うことにより、メンバー各自がより具体的に問題点を整理することができた。

- 興味関心を引き出すために、実習やフィールドワークを取り入れ、地域や実社会に触れる機会を多く作る。
- 自分のことを理解させるために、学部や大学でどのように成長できるかを大学側が明示し、入学時にキャリアプラン・キャンパスライフプランを書かせる。また、自身の大学生活・将来の姿を考えさせる場を設け、さらに数ヶ月単位で振り返りを行う。
- 自主性を育てるために、学生たち自身で企画運営し、学びあう機会や場を設ける。
- 自学・自習を促すために、体系的な学習方策の教授や学生参加型の授業を取り入れる。
- 問題発見力を育成するために、教室外での授業や他大学と交流できる場を提供し、外部からの刺激を得ることで、新たな発見や気づきに導く。

- コミュニケーション力をつけるために、オリエンテーション時に合宿を開催するなど、学生同士の交流や、多様な学年の学生と交流する場を設ける。
- 学生の意見を聞くために、学長ランチのように学生や教員、職員、大学執行部に対して意見を言える場を設ける。
- 大学を知るために、大学を開放したイベントや、積極的な広報により大学をより知ってもらう（ファンの拡大）。
- 在学生や卒業生の愛校心を育むために、スポーツイベントの応援やホームカミングデー等を企画し参加を促す。

大学のイノベーションの提案

問題点を整理し、より深める中で、現状の大学から理想の大学となるために以下のイノベーションの提案がされた。

- フィールドワークや実習活動、卒業生や地域の方を招いての授業、他大学との交流といった学生を社会と触れさせることによる興味関心の喚起。
- オリエンテーション合宿やピアエデュケーションの活性化、学生同士が交流できる場の提供といった学生同士で学びあう場の提供による自主性の育成。
- グループワークや体験型授業、双方向授業といった教員を巻き込んだ参加型授業による自主性の発揮。

大学としてこれらに取り組むことによって、従来行われてきた教員からの一方的な知識の伝授ではなしうるものが難しかった、自ら考え行動する「自主性の育成」を果たすことができるのである。また、自主性を育まれた学生は、大学を卒業して社会に出た後も、現在社会で起こっている様々な事柄に対して、自ら進んで問題を発見し、自らが行動することで解決に導こうとする「社会に貢献できる人材」となるのである。

まとめ

研修では、キャリアや大学の置かれている状況が異なる職員とグループ討議を行うことで、それぞれが新たな気づきを得られたと思う。特に、本グループの討議のテーマである「自主性の育成」を考えるに当たり、我々職員も大学運営に対して自主的に働きかけられているかを自分自身に問いかける良い機会となった。